



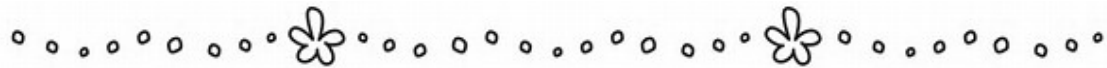
## 進路問題

山積する課題の中の一つに、毎年今の時期は中学3年生の進路問題に直面します。この問題は子どもたち一人一人にとって、その後の人生にともすれば重大な影響を及ぼしかねない大切な課題です。どの子どもも、将来の自分をどう描くかという人生の課題から逃れることはできません。児童養護施設に入所を余儀なくされた子どもにとって過酷なのは、義務教育の終了は、この課題にどんな事情があれ対峙しなければならないことです。

ところが、子どもたちがこの課題に立ち向かうためにレディネスがあるかという根本的な問題があります。施設入所の時期を子どもたちは選んでくるわけではありません。幼い頃から入所している子どもたちには、職員もこの課題があることを十分理解して自分の将来を自ら考えられるように生活を通して、子どもたちが入所までに負わされた様々な重荷を軽減する取り組みを重ねることで、将来の自分を自ら選択できるよう支援しています。しかし、義務教育もいよいよ終盤の中学生以上の時期に入所してくる子どもたちは、ともすれば入所までに負わされた様々な重荷を軽減されず、将来のことなどどうでもいいと勉強も手につかず、周りからの受験生というプレッシャーや将来への不安からますます自暴自棄に陥ってしまう悪循環の中で苦しむ子どももいます。職員は、子どもに自分の人生を主体的に選ばせたいと思っても、取り付く暇がない状態でただただ寄り添って見守るという状況に立たされることもしばしばです。

そんな中、いよいよ受験する学校を決め願書申請の「時」が来、私のところへ保護者印をもらいに子どもたちが来ます。今回はどの子どもにも、高校へ進学するという現在の気持ちについて尋ねました。『志願する高校を決めたんだよね。そこで、君の今の気持ちを考えてみて。今から言う中に自分の気持ちに最も近いものがあったら教えてくれる。一番目、「高校に行って、絶対に卒業したい。」二番目、「本当は勉強したくない。でもみんなも行くし、職員も行った方がいいというから。」三番目、「高校行ったらいいのか、どうしたらいいのか正直わからない。」どうですか?』と聞きました。子どもたちの答えは、どの子どもも「高校に行って、絶対に卒業したい。」でした。正直、院長の前だし、願書提出のための保護者印をもらわなければならないというシチュエーションだからこの答えになったのではないかと懸念があります。しかしそうであったにしても、日頃から職員たちは子どもの将来の自立を考えると、高等学校は出なければいけないということを事あるごとに伝えており、高校は行くものだという固定観念が自然に身につけていることの成果ではないかと思っています。高校全入を目指していた私の現役指導員の時代から見れば隔世の感がありますが、進路問題は高校以上の学歴取得をどう叶えさせてあげられるのかという次元に入っています。

埼玉育児院 院長 柴山英士



## 成人の会から

### いくじさんの会へ

昨年度まで埼玉育児院では、新成人をお祝いする「成人の会」を実施してきました。しかし、今年度からは今まで退所した子どもたち、退職した職員も含めみんなで一年に一度集まる機会を作ろうとなり「同窓会のようなものができるといいね!」「みんなで新成人を祝いたいね!」という所からのスタートとなりました。

今年度はスタートの年ということもあり、まずはこの会の名前を決めることにしました。色々案が出ましたが、埼玉育児院の公式?非公式?キャラクター「いくじさん」の名前を借りて「いくじさんの会(仮)」とし、正式には当日、会に参加する皆で決めることにしました。

当日は新成人一名、退所した成人五名の参加がありました。一人の子は昨年出産した子どもを連れてきてくれ場を和ませてくれました。(残念ながら今年度は退職した職員の方の参加はありませんでした。来年度以降は参加して頂ける会にしていきたいと思えます!)

軽食を食べながら参加した子達が在院していた当時の写真を見て談笑したり、退所した子も手伝って作ってくれた手作りケーキを食べたり、豪華景品の当たるクイズ大会などをして盛り上がりました。

育児院での「いくじさんの会」終了後には川越へ移動し、夕食を食べながらの二次会となりました。

子どもたちの口から出る生活や仕事の言葉には「大人になったなあ」と感慨深く感じるものがありました。最後に、出席してくれた子が「この会に参加して良かった」と言ってくれたことは今回このような会を企画して良かった、今後も継続していこうと心から思える言葉でした。

来年も再来年もずっとずっとその先も継続していき、より多くの方で「いくじさんの会」を盛り上げていきたいと思っています。

※正式名称は当日参加して下さった方々で「いくじさんの会」に無事決まりました。

「いくじさんの会」実行委員会





## 『退所児童へのメッセージ』～信頼～

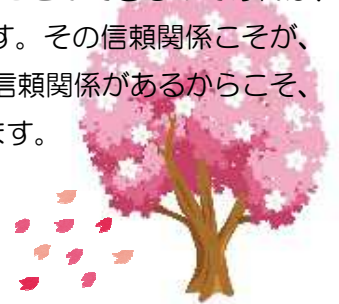
「人を信頼できる、人から信頼される大人になってほしい」その願いを込めて。

年度末の時期になると、施設を退所してく子どもがいます。今年度も数名の子どもが埼玉育児院を退所していきます。また、それに合わせて、退所児童へ向けた施設行事の一つである激励会の準備も着々と進められていきます。

私自身、入職して早 13 年が経ち、施設を退所していく多くの子どもたちを見てきました。家庭引き取り、就職、進学等々、施設を退所してく理由は様々です。今まで私たちと生活を共にしてきた子どもが、施設を離れ、喜び、期待、不安、心配等、様々な気持ちを抱えて別の拠点で生活をしていくこととなります。

入職当時、複数の高校生がいよいよ退所していく年となりました。「高校生が退所」と聞くと、真っ先に思い浮かべる言葉が「自立」です。私は、「自立」という言葉を単純に自分のことは自分でやる、何でも自分でできるようになる、そう考えていました。しかし、退所後、生活や仕事に苦勞していた卒院生を見てきて、考え方が変わってきました。

「退所後の人生の方が長いんだ。退所後に人生をどう歩んでいくのか。そのために施設職員ができることは何なのか」と考えた時、私なりに行き着いた結論が「信頼」です。入所してきた子どもたちは、最終的に私たち職員の手元から離れます。退所後、子どもたちの手となり足となり直接的に支援をしていくことはできなくなります。しかし、「信頼」を子どもたちの心の中に残すことができるのであれば、先々に困ったことや心配なことがあれば、職員を信じて、頼ることができます。その信頼関係こそが、子どもたちの「自立」への基礎となるのではないかと考えています。そして、信頼関係があるからこそ、退所後も人を信頼し、人から信頼される大人になっていけるのだと考えています。



## ～退所していく子どもたちへのメッセージとして～

施設生活において、楽しかったことや嬉しかったこと、逆に辛かったことや悲しかったこと等、それぞれの想いがあったかと思います。その想いを胸に刻み、退所していくこととなります。退所した後の人生において、良い時もあれば悪い時もあるかと思います。ですが、この先々の人生の方が長いのです。

これからは、顔を合わせて話をする機会が減りますが、どんな時でも私たち職員を頼ってみてください。私たち職員は、頼られてなんぼのもんだと思います。悩みや心配事を解決できるかどうかは分かりませんが、想いに寄り添い、共に考えることはできます。そして、人を信頼できる、人から信頼される大人へと成長していくことを願っています。

職員 広野啓仁



# 冬のおもいで

## たんぽぽの家



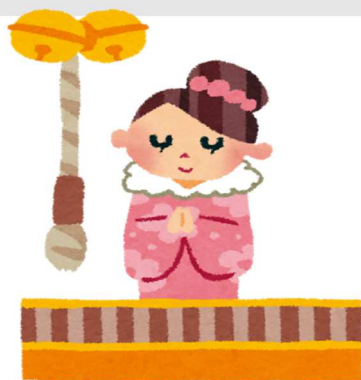
**ク** リスマスには子どもたちと家の飾りつけを楽しみました。クリスマス会用の装飾も、デザインを考えるとところから制作まで、子どもたちが率先して作り、とても可愛い作品ができあがりました。年末年始は、みんなでリビングに布団を敷いて年越しをしたり、羽根つきをしたり、のんびり穏やかな時間を過ごしました。冬休み期間に、二度積もった雪に子どもたちは大喜び。大きな雪だるまや滑り台を作って楽しく遊びました。

## つばき・はなみずきの家

**冬** レクでは、昨年と同じく苗場スキー場へ行きました。インフルエンザのため、行けなくなってしまった子ども数名いましたが、他の子は元気にスキーやスノボで遊び、精神的にも鍛えられた2日間でした。多少のトラブルもありましたが、はじめは滑れなかった子が少しずつ上達していく中で、笑顔が増えていくのは印象的でした。子どもも大人もよく笑いとても楽しい旅行となりました。



## コスモス忒・さくらの家



**年** 越しはコスモス忒もさくらも、ジャニーズの番組を！！みんなウキウキわくわくの気持ちが溢れており、笑顔笑顔でした。お正月には、コスモス忒・さくら合同で、川越へ初詣に行きました。普段電車に乗る機会のない幼児さんは、移動の時間も大喜び。神社には人がたくさんいて子どもたちはびっくりしていましたが、一人ずつ鈴を鳴らし、お賽銭を投げ、2018年がいい1年になるようお願いしました。





## コスモス壺・りんごの家

# 新

潟県・上越国際スキー場へ、冬レクで遊びに行きました。

行き帰りの新幹線の中で、駅で買ったお弁当を、外の景色を眺めながらみんなで食べたのが印象的でした。朝食のバイキングでは、目の前でハムエッグを作ってもらい、できたてあつあつをみんなで美味しく頂きました。スノーボード・食事共に、充実したレクになりました。



## 松本ホーム



# お

正月は、おせち料理やお雑煮など、正月料理をみんなで囲み、のんびりと過ごしました。

また以前から行きたいねと話していた、焼肉寿司バイキングのお店『すたみな太郎』へみんなで行きました。

好きな食べ物を思う存分食べながら、楽しくしゃべって笑ってお正月を締めくくりました。

## 原田ホーム

# い

か人参、紅白なます、おしるこ、お雑煮など、職員が一人一品作った手作りおせち料理で新しい年を迎えました。

また、みんなで初詣へ行き、おみくじを引いたり、参拝の列に並んだり、正月気分を味わいました。初詣帰りには、みんなで外食をし、楽しい時間を過ごしました。



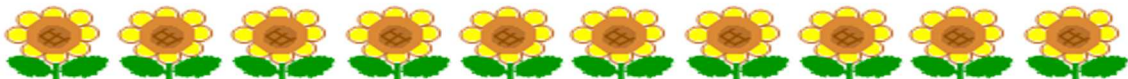
# 子育て短期支援事業【ひまわりルーム】

埼玉育児院では川越市から委託を受け、ショートステイ事業・トワイライトステイ事業を運営しています。

※ショートステイ：家庭で児童の養育が一時的に困難になった時、施設で宿泊を伴う養育、保護を行ないます。

※トワイライトステイ：17時～21時30分まで、お子さんをお預かりします。

※開所日は月～金曜日です。土、日、祝日は行なっていません。



## ひまわりルームの様子

今年度を振り返り、この1年間も本当に多くの子どもたちに利用していただきました。昨年度から引き続きご利用いただいている子どもたち、今年度から新規にご利用いただいた子どもたち、見学に来られた親御さんから、ひまわりルームをご利用するにあたってお話を聞きかせていただき、子育て短期支援事業を必要しているご家庭が、まだまだ地域の中にたくさんあるということを実感しております。同時に、この子育て短期支援事業の社会的意義も大いに痛感しています。来年度も引き続き、担当職員一丸となって子育て短期支援事業を必要とする親御さんや子どもたちにとって、より良いサービスを提供できるよう精進してまいります。

今年度最後の通信にあたり、簡単ではありますが1年間の実績報告をさせていただきます。

「平成29年度 子育て短期支援事業実績報告」

ショートステイ事業（平成30年2月28日現在）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
29年度	0	1	10	11	0	0	11	2	7	6	0	0

平成29年度ショートステイ事業実績総合計：48件

トワイライトステイ事業（平成30年2月28日現在）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
29年度	25	25	32	21	33	50	31	26	32	16	25	30

平成29年度トワイライトステイ事業実績総合計：346件

※3月は、現時点での予約件数をいれています。

※各月利用日の利用児童一人につき、1件でのカウントとしています。



育児院だよりの連載企画。児童福祉や社会的養護に関する新聞記事に対し、埼玉育児院の状況や課題などをお伝えします。

今回は、  
朝日新聞 平成30年2月3日 掲載の記事。  
『いちから わかる!』という質問コーナー抜粋。

### 「子どもの視力低下 何が原因なの？」

文部科学省が毎年行う子どもの健康調査で、2017年度は裸眼視力 1.0 未満の小学生の割合が 32%、中学生の割合が 56%でどちらも過去最高だった。高校生は過去最高を記録した前年度にせまる 62%だった。

文科省はスマートフォンやゲーム機を長時間近くで見た影響が出たとみている。日本眼科医会も「影響があるのはまちがいない」という立場だが、学術的には証明されていない。

ゲームの業界団体は、子どもがゲームで遊ぶ時間は平日 1 時間、休日 2 時間程度という調査結果をもとに「視力の低下をゲームだけのせいにするのはおかしい」としている。しかし、遊ぶ時間が長くなりがちなのオンラインゲームなどについては注意を呼び掛けている。

スマホに関して電話会社は、画面の明るさの設定を調整すれば目を疲れにくくできるが「長時間集中して利用することは、子どもでなくてもおすすめしない」としている。

眼科医会の理事の方は、大切なのは家庭での対策で『スマホ育児』を控え、食事中や布団の中でゲームをしないなどのルール作り、をすすめている。

ゲーム・スマホ… 埼玉育児院に限らず、子どもの生活にはきってもきれない物になりつつあるゲームですが、付き合い方が難しいですね。施設での集団生活となると、難しさも増すのかと思います。

埼玉育児院では、約半数の子が個人のゲーム機またはスマホを所持しています。眼鏡をかけている子は

12 人、約 20%です。「眼鏡をかけている子が増えたな」という実感もなく、視力に関しては変動していないように感じています。

どちらかという、ゲームやスマホのためのルールに生活が支配されがちという状況に懸念があります。実際、日々の記録やトラブルもゲームにまつわるものが多くあります。

子どもがゲームやスマホを所持する前から、本人主体となりお家の職員と何度もルールを考え確認し、必要に応じて誓約書などを書きます。

その中で、ゲームにおいては 1 日の使用時間、ゲームより優先させなければいけないことなどを確認しますが、ゲームをするために早くやる、逆にやらなければいけないことをごまかす・嘘をつくなどのことがたびたび起こります。

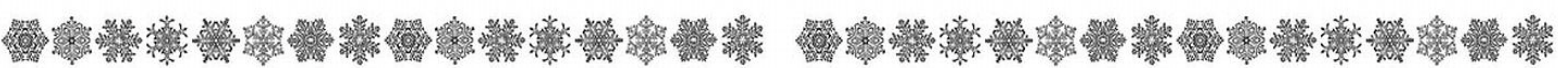
たかがゲーム、されどゲームです。子どもがゲームにかける情熱には圧倒されます。

今までだと、お風呂の時間が長くなったと思ったら、お風呂でゲームをしていたということもありました。

それと最近では、ゲーム機がゲームだけに留まらず、ネットがつながったり、SNS ができたり、通信できたり、アップデートが必要になったり、職員の対応が追いつかないこともしばしばあります。何か問題が起きるたび、ゲームに詳しい職員を頼りに情報収集したり、お店の店員さんに相談したりして

ゲームは、いつの時代も子どもたちを魅了しています。多かれ少なかれ、魅了された経験を持つ大人はたくさんいると思います。

そんな魅力あふれるモノで怒ったり、怒られたりすることは避けたいものです。ゲームが良い・悪いという解釈だけではなく、ゲームを介して自分をコントロールする力を培えるようなアイテムとして、うまく共存できると…。そして、子どもたちがゲームの世界だけではなく、現実の世界の魅力ある発見を多くできるように寄り添っていきたいですね。



1月

- 5日：コスモス巻の家レク
- 10日：埼玉県福祉施設協議会総務委員会（院長）
- 11日：部署別・主任会/霞ヶ関小学校連絡会
- 12日：国の統計調査説明会（松浦）
- 13日：経営者会議
- 14日：音楽ワークショップ
- 15日：埼玉県児童福祉施設協議会人材確保委員会（院長）  
職員派遣研修嵐山学園～17日（関本）
- 16日：埼玉県児童福祉施設協議会新任施設長研修（院長）
- 17日：部署別・職員会議
- 18日：消費生活セミナー（戸川）
- 21日：ローラーブレード（森田様）
- 24日：委員会・部署別・主任会議
- 26日：埼玉県児童福祉施設協議会サポート委員報告会（院長）/育成会会合
- 28日：成人の会
- 30日：埼玉県児童福祉施設協議会施設長会（院長）
- 31日：川越市社会福祉審議会子ども子育て委員会（院長）

権利擁護院内研修/部署別会議

2月

- 1日：川越市監査課説明会（理事長・高橋・川添）
- 2日：ひばり幼稚園運動会  
中堅職員等合同研修会（西村）  
社福管理者研修（高橋）  
埼玉県児童福祉施設協議会施設長・職員合同研修会（院長）
- 3日：自然つながりプログラムご招待（NPO法人みらいの森様）  
評価面接/経営者会議  
つばき・はなみずきの家レク
- 6日：県外視察研修（院長・松浦）
- 8日：部署別・主任会議
- 9日：あいである諮問委員会（院長）

- 10日：評価面接
- 13日：埼玉県児童福祉施設協議会総務委員会（院長）  
中堅職員研修テーマ別研修会（西村）
- 14日：部署別・主任会議/養育会議/  
ストレスマネジメント研修（牧）
- 16日：霞ヶ関中PTA運営委員会
- 17日：ディズニーランドレク（たんぽぽの家）  
山伝育成会歓送迎会（松浦・大野）
- 18日：ローラーブレード（森田様）
- 19日：第3回新任職員研修（増元・中野）
- 20日：FKCフードドライブ
- 21日：総括/給食・処遇主任会議  
越谷市民生児童委員見学  
埼玉県児童福祉施設協議会施設長会（院長）
- 25日：院内新任職員研修会
- 27日：埼玉県児童福祉施設協議会人材確保委員会（院長）
- 28日：総括/埼玉県母子生活支援施設協議会見学
- 3月
- 4日：ディズニーランドレク（さくらの家）
- 5日：CSW 実践交流会（高橋）
- 6日：総括/主任会議
- 7日：総括
- 9日：埼玉県児童福祉施設協議会人材確保委員会（院長）
- 10日：自然つながりプログラムご招待（NPO法人みらいの森様）  
ミニ川越
- 11日：中高生司法書士勉強会/山伝自治会総会（院長）  
ローラーブレード（森田様）
- 13日：部署別・職会/マネークリップ講座/書記会
- 18日：激励会/リラの会訪問
- 21日：ファミリーシップフェスタ（新田、関本）
- 24日：レク（リンゴの家）/評議員・理事会
- 26日：埼玉県児童福祉施設協議会、養成校、学生との意見交換会（院長）
- 27日：川越市法人監査・着工時検査

いつもありがとうございます。・12/1～2/28



《寄付者》いせはらクリニック、ほっともっと、増岡法子、ロッセリア川越アトレ店、サトウカズ、羽柴継之介  
パールショップともえ川越店、長谷川ひろし、おおきに屋、奥富利明、パティスリー.ア.ラ.メゾン、山崎製パン従業員組合  
日本スタング株式会社、齋藤明、フィリップモリスジャパン合同会社、中村正、延命寺、パンブキン、日本鏡餅組合  
オータ川島店、三上大地・そら、霞ヶ関カンツリークラブ、株式会社ヤオコービジネスサービス、谷恵子、山本修治、明雲  
三井住友海上火災保険株式会社、毎日新聞社秘書室一同、いるま野農協、鈴廣かまぼこ、塩谷哲・容子、坂間史郎・理恵  
北郷瑞恵、小西綾香、オータ狭山スロット館、不二家埼玉工場、高星清、杉沢昭子、まいまい、田代三和子、市川滝美、倉片清  
霞ヶ関郷土史研究会、埼玉育児院後援会、石井政恵、日本キリスト教団川越教会、元山クリニック、伊藤かつ子、川野直紀  
日本キリスト教団緑野教会、Oakキャピタル(株)、医療法人愛和会愛和病院  
《学習ボランティア》石塚定次、萩原大貴（本園）、唐津輝夫、唐津明（GH松本）、山岸智也、鈴木敦史  
《育児院だより発送》埼玉育児院サポートクラブ 《日中保育ボランティア》長内利克、山崎博子、桑原守弘・守恵  
《ピアノボランティア》小名木 千穂 《スケート教室》森田夫妻、大竹拓己（敬称略・順不同）

編集後記

時の流れる速さと子どもたちの成長の早さに驚かされる今日この頃です。今年度、最後の育児院だよりです。来年度もまた、今年度以上にパワーアップした育児院だよりをお届けできるよう、広報委員会一丸となって精進してまいります。今後とも皆様のご理解とご協力何卒よろしくお願い申し上げます。